



▲7月22日(月)に開催されたASOBI隊の「流しそうめん」。年齢関係なく、皆で夏にしかできない体験を楽しみました。

広がれ！ 支え合いのわ

親世代や祖父母世代の子どもの頃と、大きく変化している子どもたちの育つ環境。現代の子どもたちが過ごす環境などを知り、子どもたちが「開成町で育ってよかった」と思えるために、町や皆さんができることを一緒に考えてみませんか。

☎ 子ども・子育て支援室 ☎84-0328

「町子ども・子育て支援室田中室長が、現代の子どもたちを取り巻く環境とその対応策についてお伝えします。」

子どもと遊び

「子どもは風の子」と言われた時代があったように、かつては外遊びをする子どもたちがたくさんいました。しかし、生活スタイルや環境の変化により、外遊びの機会は減少しています。習いごとの増加やゲーム機、情報機器の普及、遊び場の減少等により、遊びの環境は大きく変化してきました。

民間の調査では、幼稚園や保育園以外で遊ぶときに誰と一緒に多いかの質問では、「友だち」と答える割合は、平成7年は56・1%。平成27年は27・3%と20年間で約30%も減少しています。子どもの自由な時間も、年々減少し、「忙しい」と感じている子どもは、小中学生で5割以上を占め、「もっとゆとり過ぎたい」と答えた子どもは、小中学生で7割を

超えています。

子どもの貧困

「子どもの貧困」という言葉を耳にしたことがありますか。日本において問題となるのは、毎日の衣食住に事欠く「絶対的貧困」よりも、経済的困窮を背景に教育や体験の機会に乏しく、地域や社会から孤立し、様々な面で不利な状況に置かれてしまう傾向にある「相対的貧困」であると言われています。

統計上、日本では子どもの7人に1人が貧困状態とされています。経済的に苦しい環境にあることで、教育や体験活動などの格差が発生する問題に対し、近年、全国各地で「子ども食堂」や「学習支援」等が行われています。

子どもと地域

子育て家庭が孤立することなく、地域のひととのふれあいや支え合いによって、豊かな人間性や社会性を身に

町子ども・子育て支援室
田中 美津子室長



つけることは、子どもの育ちにとっても大切なことです。

しかし、地域の教育力に関する調査結果では、半数以上の小中学生の保護者が、地域の教育力が保護者世代の子ども頃と比べて低下していると回答しています。理由は、「個人主義が浸透した（他人の関与を歓迎しない）」が5割を超えたほか、「地域が安全でなくなり、子どもを他人と交流させることに抵抗感が増加」、「近所の人々と親交を深められる機会の不足」等があげられています。（平成18年文部科学省「地域の教育力に関する実態調査」）

子ども時代の様々な年代の人々との触れ合いは、異なる価値観との出会いであり、家庭でも学校でもない「ナメの関係性（※）」がある居場所づくりは近年注目されています。（※）親戚や近所のおじさんやおばさん、家族でない年上の関係性など。

子ども・子育て支援活動助成事業

町では、地域全体で子どもたちが健やかに成長することを支える体制づくりに取り組むために、平成30年度から、子ども・子育て支援活動助成事業をスタートさせました。

今年度は、子どもの居場所づくり、子ども食堂等に特化した事業を募集しました。審査の結果、昨年度からの継続で3団体と新たに1団体、合計4団体を採択しました。次のページでは、採択団体をご紹介します。各団体の活動が町全体に広がり、支え合いの大きな「わ（輪）」づくりのきっかけになることを願っています。

また、各団体では、ボランティアを募集しています。一緒に支え合いのわづくりをしませんか。